

平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年5月8日

代表者 大友 由紀子

研究課題名	農村直系制家族50年の持続と変容－「家族変動・勝沼調査プロジェクト」による長期反復調査データを使って－
研究期間	平成27年4月1日～平成30年3月31日
共同研究者	宮城 道子
1. 今年度の研究概要	
<p>山梨県勝沼町の同一の直系制家族100世帯余りを対象に1966年から1997年まで31年間、6回にわたって実施された「家族変動・勝沼調査プロジェクト」の個票について、1992年第5回調査、1997年第6回調査、1992年S・SW結婚調査の合計7595頁をデジタルデータ化した。</p> <p>また、甲州市役所市民課にて住民基本台帳を閲覧し、対象世帯のうち92世帯、男女428名の勝沼町内在住を確認した。所在不明の16世帯のうち9世帯も、聞き取りから町内在住を確認できた。</p> <p>これより、1966年調査時の子世代夫婦が現在も揃っている3世帯、1992年のS・SW結婚調査時の孫世代夫婦が現在も揃っている2世帯、計5世帯について予備調査を実施した。子世代夫の3名は、いずれも80代後半ながら、ぶどう栽培の主な担い手であり続けている。うち2名は、世代夫婦が敷地内別棟に同居するものの、孫世代夫はいずれも農外就労に出ており、定年退職の60歳以降も雇用延長することで、就農が遅れる事例がみられた。また、孫世代妻はいずれも農業には従事していないが、自家製のぶどうジャム等を販売していた。残りの1名は、婚出した長女の長女を養女に迎えていた。孫世代夫婦が揃っている2世帯は、いずれも後継者が定着していた。1世帯の孫世代夫は婿養子であり、もう1世帯の孫世代夫婦は次女を後継者にしていた。</p> <p>甲州市役所産業振興課との共催で、2017年1月21日に勝沼町のぶどう栽培農家の代表10名を対象に座談会としてグループインタビューを実施した。後継者問題として、Iターンによる新規就農をはじめ、定年退職後に妻の実家のぶどう栽培を継承するケース、婿養子を取って娘が兼業でぶどう栽培を続けるケースについて言及があった。</p> <p>このように、農村直系制家族では女性後継者や婿養子が例外ではなくなってきた。とはいえ、ぶどう栽培における女性の労働評価や経営スキルへの期待は、まだこれからの課題と言えよう。</p>	
2. 研究の成果	
<p>3年間の研究計画の2年度目にあたる平成28年度の研究成果は、主として1年度目の研究結果を発表したものである。平成28年度から3年間の科学研究費交付が内定し、その研究課題が「農村女性のキャリア形成にみる世代変化－直系制家族50年の反復調査より－」であることから、主として家族農業における女性農業者の職業教育・訓練について、先進地である欧州南部ドイツ語圏の制度を国際比較した(3. 研究成果①②③)。</p> <p>また、日本家族社会学会の要請をうけ、平成27年6月の比較家族史学会第57回研究大会シンポジウム「家と共同性」をもとに書き下ろした、加藤彰彦、戸石七生、林 研三(編著)『家と共同性』(日本経済評論社2016年)の文献紹介を執筆した(3. 研究成果④)。</p>	

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

- ① Otomo, Y., Promoting female farm management beyond patriarchal family farm tradition: a comparative study of agricultural education and training for women in the southern parts of the German speaking area, XIV World Congress of Rural Sociology 10-14 August in Toronto, Canada. 【2.科研費】
- ② 大友由紀子「北イタリア・南チロルにおける女性農業者の職業教育・訓練（VET）－女性の経営参画とアグリツーリズム－」, 第64回日本農村生活研究大会 in 埼玉, 2016年10月16日, 十文字学園女子大学. 【2.科研費】
- ③ 大友由紀子, 中道仁美, 2017, 「欧州南部ドイツ語圏における女性農業者を対象とした職業教育・訓練制度の比較研究」, 『十文字学園女子大学紀要』47, pp.105-118. (査読有) 【2.科研費】
- ④ 大友由紀子, 2017, 「文献紹介 加藤彰彦、戸石七生、林 研三（編著）『家と共同性』2016年, 日本経済評論社」『家族社会学研究』第29巻1号, p.103. (査読無)

平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	
研究課題名	農村直系制家族 50 年の持続と変容 －「家族変動・勝沼調査プロジェクト」による長期反復調査データを使って－
研究代表者	大友由紀子
研究期間	平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日
共同研究者	宮城 道子

1. 研究成果取組状況

(1) 国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	Otomo, Y., Promoting female farm management beyond patriarchal family farm tradition: a comparative study of agricultural education and training for women in the southern parts of the German speaking area, XIV World Congress of Rural Sociology 10-14 August in Toronto, Canada.	
発表済	大友由紀子「北イタリア・南チロルにおける女性農業者の職業教育・訓練(VET)－女性の経営参画とアグリツーリズム－」, 第 64 回日本農村生活研究大会 in 埼玉, 2016 年 10 月 16 日, 十文字学園女子大学.	

(2) 雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済	大友由紀子, 中道仁美「欧州南部ドイツ語圏における女性農業者を対象とした職業教育・訓練制度の比較研究」, 2017 年 3 月 24 日, 『十文字学園女子大学紀要』47, pp.105-118.	有
投稿済	大友由紀子「文献紹介 加藤彰彦、戸石七生、林 研三(編著)『家と共同性』2016 年, 日本経済評論社』『家族社会学研究』第 29 巻 1 号, 2017 年 4 月 30 日, p.103.	無

(3) 図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	なし
出版予定	なし

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	なし
開催予定	なし

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名
平成 28 年度～ 平成 30 年度	独立行政法人日本学術振興会, 科学研究費助成事業(基盤研究 C), 農村女性のキャリア形成にみる世代変化—直系制家族 50 年の反復調査より—(課題番号 16K00762, 研究代表者:大友由紀子).